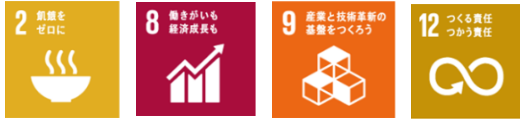


普及現地情報



発信年月日：令和5年(2023年)7月6日
所属名：大津・南部農産普及課
番号：A23009
部門分類：140(飼料作物)
発信者名：柴田 永見 木村

耕畜連携の推進へ向けた子実とうもろこしの取組開始

6月20日から21日にかけて大津市南比良で子実とうもろこしの播種が実施されました。

ウクライナ情勢などに起因する世界的な穀物価格の上昇もあり、家畜飼料として国産子実とうもろこしへの期待と需要が高まっています。そこで、令和4年度に「滋賀県子実コーン組合」が設立され、県内各地で子実とうもろこしの栽培が開始されています。

大津市では令和4年度に1haの試作が実施され、令和5年度は養鶏農家を含めた3名の農業者が3.6haで連携した取組を行っています。耕畜連携の推進に向けて、養鶏農家がすべてのほ場に鶏糞を散布しました。生産される子実とうもろこしは養鶏農家へ全量出荷されます。

子実とうもろこしと水稻との収穫作業との競合を避けるために、6月に播種し10月に収穫する作型を選択されました。また、効率的な作業のため農業者が各工程を分担され、当課は作業分担とスケジュール管理についての助言を行いました。

令和4年度の試作において明らかとなったほ場の湿害や鳥害などの課題には、明きょ本数を増やすなどの排水対策の徹底、適正な播種深度の確保、防鳥糸の展張などを指導し、それぞれの実施方法や適期作業を支援しました。

今後は、収量確保に向けて、雑草管理や病害虫対策など適正に実施できるよう支援を続けていきます。また、経営的な観点から、コストや労働時間の試算を通じて地域への導入メリットについても示していきます。



適正な播種深への調整作業



発芽状況確認 (6/30)